



目次

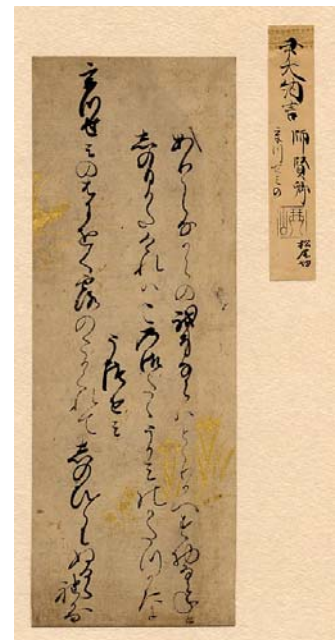
貴重書紹介『伝花山院師賢筆 源氏物語歌集 松尾切』	・ ・ ・ ・ ・	p. 1
電脳商売ことはじめ—日本文化とITの融合—		
株式会社紫式部 代表取締役 河野真	・ ・ ・ ・ ・	p. 2-3
図書館からのお知らせ	・ ・ ・ ・ ・	p. 4

貴重書紹介 伝花山院師賢筆 源氏物語歌集 松尾切

源氏物語には約800首の和歌が含まれ、散文の秀抜さとあいまって独自の表情を作り出している。そして、伊勢物語ほどではないにせよ、源氏物語中の和歌も高い評価を得ており、物語の中から歌を抜き出し歌集として読める、あるいは地の文を要約して詞書とし、あらすじをも把握できるようにした書物が、早くから作られた。たとえば、伝二条為氏筆の源氏物語歌集は、確かに鎌倉時代までさかのぼりうる作例であったらしい（東京帝国大学国文学研究室、惜しくも関東大震災のおり焼失）。古筆切中に類例もいくつか見られるが、掲出の松尾切は源氏物語歌集断簡のうち最もよく知られ、古くから珍重された優品である。

縦26.4、横9.4厘の料紙に闊達な筆跡で4行書写。冒頭「ありしなごらの我身」の合点は、当該箇所「とりかへすものにもがなや世の中をありしなごらの我が身とおもはむ」の引歌があることを示す。もとは大振りの卷子本であつたらしく、小御門神社（千葉県香取郡）には卷子形式の1軸が伝わり、原態の一部をとどめる。伝称筆者は後醍醐天皇に仕えた花山院師賢（1301～1332）であり、力強く個性的な筆跡は、南北朝のものと見て大過ない。料紙を雁皮、花山院師賢自身の手と考える説もあるが、楮紙を用いており師賢とは別の書き手である。金泥で水辺と杜若を描いた下絵はなかなか瀟洒なものだけれども、残念ながら後描き。古筆切の鑑賞価値を高めるためにしばしば行われる手法である。

松尾切は、現在30枚ほどが知られており、源氏物語前半部の断簡が多い。花山院師賢の子孫と言われる丹波篠山藩主青山家には僚巻が3巻伝来していたらしく、うち1巻は前掲小御門神社本だが、残り2巻については消息不明。「尹大納言師賢卿うつせみの〔琴山〕」（オモテ）、「切 癸巳〔了音〕」（ウラ）の極札が附属し、古筆了音（1674～1725）の極め。癸巳は正徳3年（1713）である。



電腦商売ことはじめ—日本文化とITの融合—

株式会社紫式部 代表取締役 河野真

最高の古典にあやかって

私の今の仕事は、伝統文化のすばらしさを世界に発信することであり、事業のひとつとして「本を愛する人の総合サイト スーパー源氏」を運営しています。でも、大学を出た時は、普通のサラリーマンでした。もう15年ほど昔、そのころ勤めていた会社の取引先に、「横浜いのちの電話」というボランティア団体に所属していた人があり、私も誘われて参加、会社とは別に社会との接点を持ちたいと思っていましたので、この団体での活動は、とても新鮮でおもしろいものでした。ある日、ボランティア団体のある女性から「古本屋を開業したいのだけれど、なにか新しい通信販売の方法はないかしら」と相談されたのが、この道に足をつっこむ機縁になりました。

パソコン通信がはやりはじめたころでしたから、これからはインターネットで商売する時代になるだろうとぼんやり考え、ホームページの製作方法を勉強してまず自分のサイトを開設し、ごくごくささやかなベンチャー企業の旗揚げをしたところまではよかったのですが、世間は冷たく、ぜんぜん反応がありません。あまり暇なので、自分で自分に注文して遊ぶような状況が続く、それでも会社から帰るとパソコンにむかいネットサーフィンするのは楽しく、会社勤めとは別のライフワークが見付かったような気持ちでした。

微細企業とは言え、いちおう社名も必要。あれこれ思案し「紫式部」としました。最高の古典のひとつ源氏物語にあやかったわけです。源氏物語は日本文化の大きな柱であるのみならず、世界30ヶ国以上の言葉に訳され、その著者紫式部も知名度抜群なのは言うまでもありません。源氏物語の足下にも当然及ばないにせよ、少しでもすぐれた仕事を残したい。遠く高い目標をうたっての出発です。なにせ、棒ほど願って針の先くらいしか実現しない世の中ですから、身分不相応の旗印を掲げるのもわるくないでしょう。

あまりに変わった社名なので、すぐに覚えてもらえます。ただし、飲み屋もしくはもっといかがわしい商売と間違われることもあります。最近、紫式部学会の仕事も少しするようになりました。これも社名の御縁です。

船出

西も東もわからず、わが「紫式部」は出発しました。先に書いたとおり全然反応がありません。全国の古本屋さんに話をもちかけても、まったく駄目。当時は、インターネットどころかパソコンすら高価で普及せず、自宅に持っている方は圧倒的少数派。今ではだれでも知っているWindowsも、Windows95すら発売されてはおらず、ほとんど話が通じません。「Windowsを使っていますか」と言うと、「それって、窓ガラスのことですか」と聞き返される始末でした。羅針盤も持たない、脳天気な船出です。

1998年ころからやっと手応えを感じるようになりました。「古本屋さんを回りたいが、子供に手がかかってなかなか余裕がない。本を紹介するサービスはとても便利だから、ずっと続けてほしい」と言う主婦の方からのメールや、「長年祖父の書いた本を

探していたが、やっとこのサイトで見つけることが出来た。ほんとうにありがとう」と言う男性の声に、自分のやってきた仕事は意味があるのだ、と元気づけられました。人と本との縁を取り結ぶ自分の仕事は、小さな社会貢献なのだ、と思えるようになったのです。

その後、「紫式部」の事業に共鳴する本屋さんも徐々に増え、お客様からの問い合わせとか参加店のサポートとかに忙殺されるようになり、気がつくやうに夜中の3時、と言ふ日もかなりありました。が、黙殺されてきた仕事に反応があり、確かな手応えを感じる事がとても嬉しく、まったく苦にはなりませんでした。

ところが昼間は会社勤めに追われ、「紫式部」もまた忙しさが加速、ストレスはたまるし身体も辛い。とても両立は難しいのです。当然、ネット上から「紫式部」を消去するか、会社を辞めて独立するかを選択を迫られることとなります。中学生と高校生の子供がいて住宅ローンのおまけ付き、うちのおかみさんは勿論猛反対。一度限りの人生で、後悔はしたくない、とカッコいい理屈をつけて独立に踏み切りました。2000年のことです。

当時、私は44才。10才若いか、あるいは10才年齢を重ねていけば、案外楽に独立出来たでしょう。44才と言ふのは、決断には中途半端な年齢だったかも知れません。独立してみると、アメリカほどではないらしいですが、日本でも行政・民間の様々な独立支援組織やサービスがあり、起業を援助する体制が整ってきていると、実感しました。

書物文化・日本文化

もともと本は好きです。また本と人の縁が、ささやかだけれどもかけがえのない喜びを生み出すのを見ると、とても嬉しい。そのほか、手練の技が作り上げる和紙や漆の工芸とか、明治期の繊細な伝統的印刷物とか、優れた内容・価値を持ちながら、ごく少数の具眼の士にのみ愛好され、一般にはほとんど知られていないものが、まだまだこの国にはたくさんあり、それらを活かした本作りや商業デザインも少しずつ手がけています。目指すところは、日本文化とITとの融合・本と人との縁結び・本を通じての人と人との出会い。のんきにやってきたようでもあります。正直申せば泣きたくなる話も山盛りです。紫式部と源氏物語の名声に少しでも近づきたいと、荒波にもまれながら舵取りの毎日、さて無事目的の港にたどりつけるでしょうか。

(コウノ マコト)



「紫式部」制作の
紫式部学会シンボルマーク

図書館からのお知らせ

第 18 回企画展

3月27日から5月19日まで開催した「第18回企画展 学びのツボ 学科別推薦本」では240冊を展示し、そのうち、延べ貸出冊数は84冊(全点数の35%)でした。以下の本は、展示期間中に3回貸し出されました。

藤井貞和. 古文の読みかた. 岩波書店, 1984.

東京大学教養学部理工系生命科学教科書編集委員会編. 生命科学. 羊土社, 2006.

田上時子, エリザベス・クレアリー. 子どもに愛を伝える方法. 築地書館, 2002.

企画展は、設定したテーマによって、図書館の書架に普通に並んでいる本を抜き出して、興味を持ってもらえるように表紙が見えるようにして展示します。企画展のテーマは、学部学科に関する資料、学生生活、社会の話題などから設定しています。図書館の貸出を促進するため、直接手に取って、見て、借りることができる展示です。

表は学生一人当たりの年間貸出冊数ですが、貸出冊数は10年前の9.8冊から6.6冊に落ち込んでいます。近年は、企画展や図書館ガイダンスなどの取り組みを反映して、減少傾向に歯止めがかかっています。

	日文	英文	文財	Doc	歯学	国文	保育	衛生	合計
1996	18.5	8.4			5.7	14.1	6.3	4.2	9.8
2004	10.2	3.3	15.9	2.8	5.4	10.1	6.7	1.4	6.9
2005	9.9	2.7	15.3	3.7	6.6	7.5	5.9	2.2	6.5
2006	9.6	4.4	13.7	3.7	6.7	3.8	6.0	2.7	6.5
1996年比	52%	52%			116%	27%	95%	63%	66%

生涯学習セミナー受講者への貸出開始

今年度から、生涯学習セミナー受講者への図書の貸出を開始しました。従来は、会員証の提示によって図書の閲覧ができましたが、受講者から要望が多かった、図書の貸出にも対応しました。5月末までに、14名の受講者の方に「図書館利用カード」を発行し、23冊の貸出がありました。

県立図書館との相互協力協定の実績

2006年度から開始した「神奈川県立図書館との相互利用協定」により、お互いの資料を取り寄せて、館内での利用が可能になりました。昨年度は、当館からは3冊を貸し出し、県立図書館からは16冊借り受けました。

この協定により、当館の利用者は県立図書館の豊富な人文・社会科学関係資料や郷土資料を利用できるようになりました。また、当館の所蔵資料を、大学の地域貢献の一環として県立図書館を通じて、広く県民の皆様提供できるようになりました。

アゴラー鶴見大学図書館報－ 第125号 2007年6月15日発行

編集・発行 鶴見大学図書館

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 Tel:045-580-8274 Fax:045-584-8197

鶴見大学図書館ホームページ <http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/>